

スクールでは、様々なチャレンジや困難な課題を出します。

その中で、たとえば、このような分野において、子どもたちは学んでいきます。

1. コミュニケーション能力

日常生活や社会生活のあらゆる場面で、適切な言葉遣いや態度、感情表現を行うためには、他者の思いを汲み取り、認め、思いやりを持って接する習慣が必要です。普通の小学校とは異なる初対面のメンバーの中で、ニックネームを付けた「もう一人の新しい自分」が、どのように新しい人間関係を築くか。当スクールの参加者にとって「最初で最大のチャレンジ」とも言える課題です。

2. チームワークと協力

グループ活動を通じて、他人と協力することの重要性を学び、共同で目標を達成する力を養い、達成感を共有します。そのために、授業や昼食の準備や片付けは大人ができるだけ手伝わず、子どもたちが自分たちで完了できるように導いていきます。助け合うことで、同じ目標に向かう大切な「同志」として認め合い、自然と仲良くなっていきます。

3. 自己管理能力

時間管理や計画立て、宿題や課題の締め切りを守るなど、自分の行動を管理する力です。これにより、将来の生活や仕事において責任感を備えることができます。「良いよ良いよ～」と大人たちに守られ、面倒なことを任せてきた子どもたちも、このスクールでは「これは自分でやってね」という優しくも毅然とした導きのもと、自分でできるように促します。

3. 問題解決能力

困難な状況に直面したときに、自分自身の限界を過小評価せず、課題を論理的に考え、創造的に解決策を見つける力です。成熟した大人よりも「常識」にとらわれないこの年代だからこそ、突拍子もない柔軟な解決法を見つけ出すことがあり、スタッフを驚かすことがあります。

「●●でやってみたい」

「え？ほんとにできる？じゃあやってみて！」

と、大人が変な先入観・常識で否定せず、一度試させてみます。

たとえできなくても、子どもたちは「この方法では●●という理由でできなかったから、次は●●の方が良いと思う」と論理的に解決策を見つけ出します。その可能性は無限大です。

4. 感情のコントロールと共感力

自分の感情を理解し、適切に表現する力と、他人の気持ちを理解し共感する力です。子ども

らしさを尊重しつつ、自らの言行が他者に与える影響を自覚し、必要に応じて自分を律することで、健全な人間関係を築き保つことを学びます。ただし、自我に反して無理に「良い子を演じる」ことは本末転倒であり、自らを大切にすることを妨げてしまいます。

5. クリティカルシンキング

様々な状況とその背景をいったん批判的に分析し、感情や個人的な利益に左右されことなく判断する力です。これは、多様性に富む現代の情報化社会において、周りの情報に流されることなく、自らの人生哲学に基づく的確な判断を行うために重要です。

また、そうした「人生哲学」を構築するために、様々な倫理的・哲学的な課題を与え、悩み思考する機会を提供します。

6. リーダーシップと責任感

リーダーシップの機会を通じて、責任を持ち、他人を導く力を育てます。リーダーだけでなく、サポート役としての役割も重視します。時には一番の低学年の子どもがリーダーになることもあり、リーダーになる人もメンバーになる人も、それぞれに大きな学びがあります。

これらの能力を身につけることで、小学生は社会に出る準備をし、より豊かな人生を送ることができるようでしょう。